

総合技術支援センター活動状況概要

齊藤作義

技術発表委員会

1. はじめに

総合研究機構技術部は平成24年4月の改組により、研究機構総合技術支援センター（以下、センター）として新たに発足し、今日まで種々の活動を行ってきている。ここでは、センター発足1年を迎えるに当たり、これまでのセンターの活動状況についてその概要の一端について報告する。

2. センター組織

センターの組織構成を図1に示した。センター長、総括技術長以下、①機械建設系、②電気電子情報系、③物質・生命科学系の3つの系により構成され、すべての技術職員はこのいずれかの系に属している。5つの系に細分化されていた技術部時代に比べ横方向の連携が密となり、業務の柔軟性・迅速性が期待される体制となってきた。

また、理工学研究科棟2階に新たに設置されたセンター室では、理工学研究科に関わる毒劇物一括受入れ窓口が稼働すると共に、技術相談等の受付も行っており、今後のセンターの活動拠点の一つとなりつつある。

3. 活動状況概要

センターの活動は所属の系、及びそれぞれの技術職員ごとに非常に多岐にわたっているが、ここでは以下の項目に大別しその概要について述べる。

3.1 教育・研究支援

図2に教育・研究支援業務の一例を示した。各学科等における学生実験支援、研究室等での卒業研究生・大学院生の実験指導等の教育・研究支援関連業務、更には、研究室で行われている最先端技術に関わる業務は、従前より多くの技術職員が携わっている業務であり、技術の進歩が著しい今日ではその重要性はますます高いものとなっている。また、科学分析支援センター、情報メディア基盤センター等においては、薬品管理システムIASOを用いた薬品の一元管理、最新の分析機器を使用した学内外からの依頼測定、ネットワークを初めとした情報機器関連のハード・ソフト両面

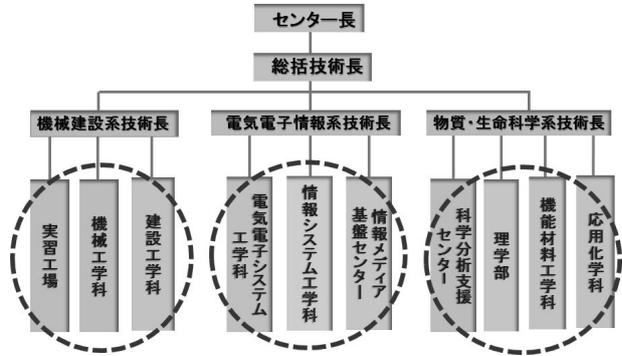


図1 センター組織構成

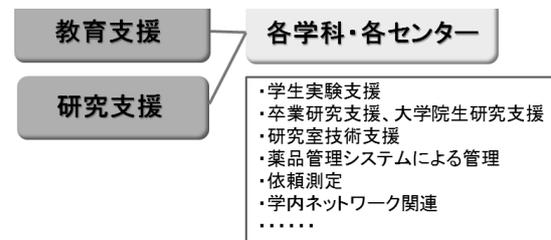


図2 教育・研究支援

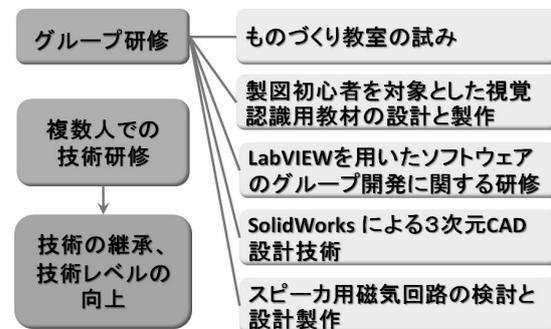


図3 グループ研修(24年度)

からのサポート等、学内全体あるいは学外をも含めた広い範囲での技術支援を行っている。

3.2 グループ研修

グループ研修は図3に示したように、複数人で行う技術研修で従前からの技術の継承、新たな技術の習得による技術レベルの向上を目的として行われている。今年度は図に示した5つのグループが鋭意活動を行っている。なお、このグループ研修を更に発展させ、次のプロジェクト活動へと移

行したのも数多い。

3.3 プロジェクト活動

プロジェクト活動については図4に示したように、主として地域貢献を対象としたものと、全学サービスを対象としたものがある。ガラス細工技術講習では、学内学生実験等での講習も行いつつ、地域の高等学校の教職員・生徒を対象としたガラス細工技術講習を行っており、これまでに県内高等学校の3割以上で講習を実施している。また、ものづくりでは、夏休みやオープンラボ等を利用した近隣小中学生向けのイベントを、ガラス細工技術講習等とともに企画・実施し、小中学生のものづくりへのモチベーションの向上の一翼を担っている。また、電気工作ショップ、安全管理プロジェクトではそれぞれ、学生実験用をはじめとした各種電子回路製作等のサービス、ヒヤリハット例の収集等による安全管理情報の発信を通じた大学の安全管理に対する支援、等の全学サービスを行っている。その他のプロジェクトにおいても、それぞれの目的に応じた支援依頼等に応えるべく、技術の研鑽を重ねている。

3.4 委員会活動

委員会活動は図5のように、現在3つの委員会が活動している。このうち、広報委員会はセンター発足とともに組織され、ニュースレターの発行によるセンターの活動内容・イベント等の発信を全学向けに行っている。これまで、理学部・工学部に限られがちであったセンターについての認知度の向上が図られるとともに、より広い分野での技術職員の活躍につながるものと期待される。

4. 今後の展望

技術職員が今後の多種多様な技術支援依頼に応えていくためには、図6に示したように、相互の専門性を集積した、組織としての総合的技術力により活動を行っていくことが必要である。一人一人の技術研鑽とともに、プロジェクト業務のように、チームでの連携した業務形態がますます重要になっていくものと考えられる。また、定年退職に伴う減員については、新規採用等による若手技術職員の確保も重要である。これについては、関係各位のご理解により平成25年度に2名の新規採用が計画されており、センターの技術力の増強と円滑な業務遂行が期待されている。

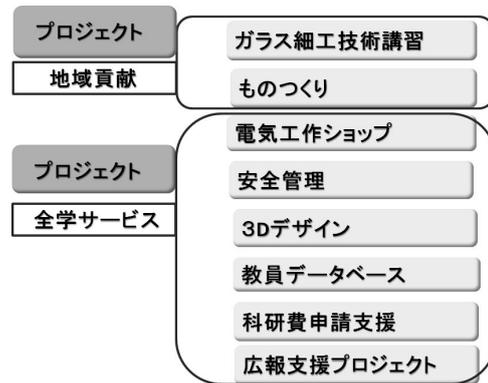


図4 プロジェクト活動

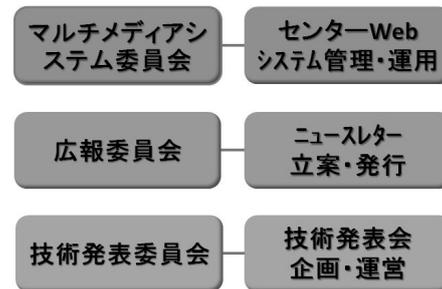


図5 委員会活動

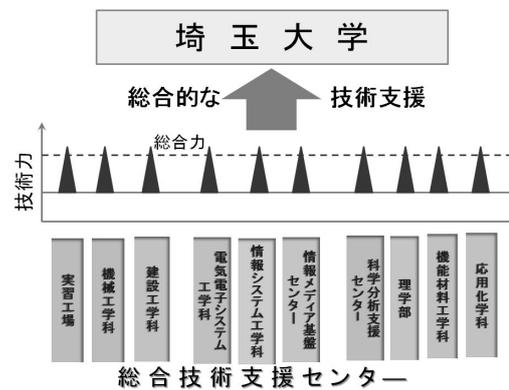


図6 組織としての技術支援

5. まとめ

センターの活動状況概要についてその一端を報告した。活動内容の詳細等については、本報告集で後述されるそれぞれの報告、あるいはセンターHPを参照されたい。本稿がセンターの活動に微力でも寄与できれば幸いである。

参考文献

- 1) 折原 操：“埼玉大学総合研究機構技術部「組織と活動状況」”，平成23年度新潟大学教室系技術職員研修
- 2) 総合技術支援センター広報委員会：“平成24年度ニュースレターNo.1- No.3”